

# 定例会3月会議 一般質問

5名の議員から6問の一般質問があり、町の対応や考え方をたしました。

！ 一般質問とは、議員が町長（執行機関）に対して、事務の執行状況や方針について質問したり、報告、説明を求めることを言います。



小鹿 昭義 議員

## 小鹿議員

町は、道南自治体で初となるがん基本条例を施行し、全てのがん検診を無料化しているが、2020年頃から受診率が伸び悩んでいるのではないかと感じる。また、新規受診者も少なくなってきたことから、基本条例に対する町民意識の改革が必要になってきていると思うが、以下の点について伺う。

- 1 2022年度のがん検診受診率
- 2 基本条例の検証
- 3 2023年度の目標値設定と方策
- 4 がんが発見された場合のケア

問

がん基本条例の検証は？

答

がん検診の受診率向上に努めていく

## 鳴海町長

- 1 2022年度のがん検診受診率：1月末時点で、胃がん18.3%、肺がん31.7%、大腸がん28.2%、乳がん39.4%、子宮がん18.8%。
- 2 基本条例の検証：健康づくり推進員会議で状況を検証し、必要に応じて改善を加えている。
- 3 2023年度の目標値設定と方策：胃・肺・大腸がんは20%、子宮・乳がんは30%を目指し、個別ハガキでの受診勧奨を実施。令和5年度から胃カメラ（胃がん）検診を40歳に引き下げるなど早期検診、発見に努める。
- 4 がんが発見された場合のケア：地元医療機関、専門的な医療機関・北海道との連携を図る。



川村 明雄 議員

## 川村議員

福島高校の今年度入学者は9人となり、来年10人に到達しないと高校の存続は不能となる。将来も存続は困難という危機感のなか、現況の対策のままでは状況は変わらないと推察する。

生徒の視点は卒業後の自分の人生を築き上げるための勉学や資格取得と生活の確保であり、生徒の卒業後の夢を叶えられる対策が必要である。

存続対策を確かなものにするためにも、「福島高校から大学などを目指してみませんか！」という対策を加えてはどうか。本事業を実現するために（仮称）「福島商業高校卒業生進学支援基金」の創設と、給付型奨学資金の対応を提案する。

問

生徒が卒業後の夢を叶える対策を！

答

教育課程・生活環境の魅力向上に取り組む

## 鳴海町長

既存の奨学金制度を活用していくことが第一と考えているが、国では今後異次元の子育て対策を目指しているため、動向を注視しながら必要に応じて適切な対応に努める。

## 小野寺教育長

入学者が10名に届かなかったことは大変残念であり、最大限努力していく。

入学者から聞いた入学動機は、人間関係の変化、教育課程の魅力、青少年交流センターの快適な住環境などであり、高校の魅力を選択の基準にしていると考えられる。

給付型奨学資金の提案だが、進学支援として引き続き無利子の奨学資金等で対応し、生徒が進学したいと思うような教育課程や、生活環境等の魅力向上を重点的に予算配分し生徒の確保に全力で取り組む。



木村 隆 議員

問

防災機能の道の駅と道路政策の必要性は？

答

防災道路の事業化を最優先に進める

### 木村議員

松前半島道路建設は、第一優先として防災道路という観点で要請活動を展開している。

要請活動も必要だが、予算が付くかは不透明で、他のブラッシュアップも必要と考える。

それは道開発局の新広域道路交通計画に沿った「広域的な防災機能を担う道の駅」を整備し、防災拠点に対して道路整備要請を行っていく方法である。

渡島管内には広域的な防災機能を担う道の駅がまだなく、有事の際には防災の道の駅が避難場所や災害対策拠点となります。

国道228号線の価値を上げるべく「広域的な防災機能を担う道の駅」を整備することは、**当町の道路政策の必要性を訴える大きな要因になると思**うが見解を伺う。

### 鳴海町長

国道228号線白神・松浦地区の防災対策については、函館開発建設部により、事業化検討の一環として、自治体や医療関係者、産業団体等に対し意見聴取を実施しており、事業化に向けて大きく前進していると受け止めている。

これまでの要望活動とは異なった視点で防災機能を有する道の駅を整備し、その防災拠点に繋がる道路整備を要望する方法の提案だが、**白神・松浦地区間は、海岸線で斜面に災害の危険性を有する箇所が多数存在し、落石等による通行止めが頻発している状況にあり、一日も早い事業化で地域住民の安全で安心な暮らしを確保する必要があり、まずは、防災道路の事業化を最優先し、道の駅**の整備については、防災道路と切り離して検討を進めていく。



平沼 昌平 議員

問

DXに対応できる人材の確保を！

答

民間からの派遣・採用も検討していく

### 平沼議員

先日、木古内町で「DXと地方創生について」の講演を拝聴した際、何故か焦りのようなものを感じ、仕事に限らず我々の生活を変革させ、より良いものへと導くことが必要と考えさせられた。今後、降り注ぐようになってくるビッグデータの選りすぐりと活用、人手不足とPCの老朽化の対応等を考えると**デジタルに精通した人材づくり、専門課の設置や人材配置の検討が必要であり、従前のサービスや仕組み等を組み合わせる新しい価値を見出す必要性も感じる**が**考えを伺う**。

### 鳴海町長

様々なものがデジタル化されていく中で行政組織も強力な推進が求められており、デジタル専門課の設置や人材の配置は、重要と捉えているが、**人口規模の小さい町では、大変厳しいものと認識**している。

**地域おこし協力隊制度の活用や、民間電算会社等からの派遣・採用なども一つの手段として、今後検討する課題と**考えている。

現時点のDXに関する町の対応は、国が示す「地方公共団体情報システム標準化基本方針」に基づき、住民基本台帳や税等の標準化対象事業20事業に関連した移行作業を進めている。



佐藤 孝男 議員

## 佐藤議員

千軒地区の住民はほとんどが60歳以上ですが、運転免許の返納を考えている人が増えてきており、数年の間に5人の方が返納し不便な生活をしております。

以前、デマンドバス運行について質問した際、路線バスが通っているからとの理由で却下されたが、現在は状況が変わっており、不便で何とかしてほしいとの要望がある。

優しい福祉のまちづくりの為、千軒地区にも平等な政策をお願いしたいと考えるが如何か。

## 問

千軒地区のデマンドバス運行を！

## 答

新たな公共交通の導入に向けた検討を行う

## 鳴海町長

町では、高齢者等の移動手手段の確保や、地域に必要な交通サービス確保を目的に、「地域公共交通計画」を策定し、持続可能な公共交通体系の維持・確保に努めてきた。

千軒地区では、デマンドバス運行当初に比べデマンド型交通導入の要望が高くなっていることから、地域公共交通活性化協議会において、「千軒地区における新たな公共交通の導入に向けた検討」を施策として計画に位置づけ、地域の実情に合った対策について、令和5年度から検討を進めていく。



## 問

環境整備に万全を期すためにも町は協力を！

## 答

取り組みを支援していく

## 佐藤議員

「殿様街道」が道南唯一の日本山岳古道120選に選ばれ、大変喜ばしく思う。

今まで地域活性化メンバーが歩道環境を整備し、年2回のイベントを行ってきており、1回の開催で50人ほどの方が参加している。

年2回と限定されたイベントで、街道の環境整備も集中的に出来ていたが、これからは普通の日でも多くの方が来ると思われ、万全な環境整備が必要であるが、地域活性化メンバー独自の活動だけでは無理があり、町の協力が必要と考えるが如何か。



## 鳴海町長

「殿様街道」が山岳古道120選に決定され、大変喜ばしいことだと感じている。

千軒地域活性化実行委員会や町内会の皆様に探訪ルート整備や標柱看板設置等を担って頂いており、先人たちが築き上げてきた古道を後世に残していく責任が町にはあり、**殿様街道の地域資源保全が、千軒地区の活性化を実現し**、岩部クルーズ観光と連携した事業を展開する等、町の新たな観光体系の充実に努め、**後継者育成についても支援**していく。

探訪ルートの整備は、檜山森林管理署等から協力していただける旨のお話を頂いている。